



日本洋書協会

JAPAN ASSOCIATION OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

JUNE 2019
REPORT MAGAZINE

会報誌 | vol. 53 no. 4

Published by JAIP 1-1-13-4F, Kanda-Jimbocho, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0051

e-mail:office@jaip.jp

総会報告

2019年度定時総会は5月24日（金）午後4時30分から
国際文化会館（東京都港区）にて開催された。

〔出席状況〕出席16社

委任状17社

計 33社

正会員38社に対して上記のとおり過半数の出席を得たので、協定会款第31条の規定に基づき本総会は成立した。

平野総務委員長（ユサコ）の司会・進行により開会し、総会出席状況（上記）および2018年度の会員動向が報告された。

会員動向：

入会：無し

退会：5社

（正会員）

㈱マクミランランゲージハウス、大洋交易㈱、西山洋書㈱、㈱至成堂書店

㈱ウォルターズ・クルワー・ヘルス・ジャパン

結果として昨年の総会時に対し、正会員5社減の38社、賛助会員変わらず5社 計43社 個人会員2名となった。

初めにグレシャム理事長（MHM）から開会の挨拶・理事会報告及び各委員会の2018年度の活動報告が行われた。（一部資料での説明）

- ・出版と流通の世界はここ10年ほどで大きく変化した。受け入れと対応はできているか？
- ・国自体も国際社会の課題への対応が遅い。革新、創造性、そして機動性の組み合わせが大事。
- ・会員の減少により財政はひっ迫している。4月から事務局の改変に着手した。

（理事長のスピーチ全文はホームページに掲載します。）

議案審議〔議長：グレシャム理事長〕

【2018年度決算報告】

平野総務委員長（ユサコ）より2018年度の決算内容の説明があり、続いて相澤監事（極東書店）より監査報告があった。松村監事と精査の結果、会計処理には問題はなかった旨報告があった。その後採決の結果2018年度の決算は承認された。

【2019年度予算案】

平野総務委員長から内容の説明があった。

事務局の業務を分析し、委員会に業務の大半を移管し、最終的には事務局自体を外部委託することを視野に入れ、事務局経費の大幅圧縮、一部経費の削減を行い、赤字を回避するよう組み立てた。

その後、採決の結果2018年度予算は可決、承認された。

以上ですべての議事を終了し、河村副理事長（丸善雄松堂）の挨拶を以て2019年度定時総会を閉会した。

以上



第3回 美術鑑賞会レポート

先日、日本洋書協会の第3回美術鑑賞会に同僚と3人で参加させて頂きました。僥越ながらその時の様子と感想をレポートさせて頂きます。

弊社の中で洋書関連の部門に配属されて早数ヶ月、配属前に一度日本洋書協会有志のイベント「ウイスキーの里を歩く」の会に参加させて頂いた事はありませんでしたが、このような催し物もあるとは存じ上げませんでした。(去年から発足されたという話は後から伺いました。)

元々美術館巡りは好きでしたが、広告で行きたい展示会を見つけても『あっ…今度これ見に行こう…』と思っては行き忘れて、気づけば展示期間終了の繰り返しでその度に悔しい想いを何度も味わってきました。

実は、美術鑑賞会の案内が来た際、【国立西洋美術館開館60周年記念 ル・コルビュジェ 絵画から建築へ—ピュリスムの時代】が2016年にユネスコ世界文化遺産に登録された国立西洋美術館本館で開催され、設計した張本人のル・コルビュジェ (1887-1965) に関する展示会とは中々ない面白そうな企画だなという程度の興味でしかありませんでした。しかし、この機会を逃したらまた暫く美術館から足が遠のいてしまうのではないかと思い『えい!』と今回参加を決めました。

率直な感想と致しましては、参加して良かったなと思いました。

美術館へは1人で行く事が多かったのですが、今回の美術鑑賞会で他の方と意見を交わしながら巡って行く楽しさを味わう事ができました。同僚の先輩と一緒に回った時にル・コルビュジェの考案を元にした複数の建築模型の内、ある1つの住宅模型の前で足が止まりました。模型はガラスケースの中にあっただけなのですが半分しかなく、私は断面図をみせる為に半分だけなのかと思っていました。すると先輩から「ここから見るとガラスケースに模型が反射して奥行きができて半分の建物が1つの建物のように見えて面白いね。」と言われ、先輩が見ていた角度から同じ模型をみて見ると確かにそのように見えました。あまりにも思いもよらなかった光景に思わずそこから写真を撮ってしまいました。(※写真可の場所です。) もし1人で淡々と見て回っていたら発見する事ができなかっただろうなと思い、改めて芸術は人それぞれ観点が違う事を実感しました。

また、今回の展示会の目玉であるル・コルビュジェのピュリズム(純粋主義)で描かれた絵画は幾何学的構成により対象物が平面化されている為、一見すると何が描かれているか分からないものも多々ありました。それを先輩とああで



国立西洋美術館外観



半分だけの住宅模型

もないこうでもないと一緒に考え、意見を交わしながら回って行きました。今回は美術鑑賞会へ参加したのが初めてだった為、先輩としか館内を回っていませんでしたが、これを他の参加者と意見を交わしながら回ったら更に楽しいかもしれないと今後の美術鑑賞会での楽しみが増えた気がしました。

懇親会に関しましても、他の洋書関連の会社の方々とは是非ともお話をさせて頂ければと思い、参加させて頂きました。最初は鑑賞会の余韻に浸っていましたが、その内話題が同じ洋書協会主催の映画観賞会で他の参加者が見た映画の話になり、あまりにもニッチな内容の会話に衝撃を受けました。一緒に参加したコアな映画マニアの同僚が自分のマニアックな話題で会が盛り上がった事に喜んでいました。正直会話自体にはついていけなかった部分もありましたが、そんな会話を聞くこと自体が新鮮で、自分の世界観が広がり、とても楽しい時間を過ごす事ができました。

今後美術鑑賞会は勿論の事、様々な洋書協会のイベントには是非とも参加させて頂きたいと実感しました。次回も楽しみにしています!

(丸善雄松堂株式会社 伊藤 亜莉彩 (Alissa Ito))

第3回 シネマクラブレポート

汚い部屋だ。障子、襖、畳、すべてがうす汚れ、油じみている。そして物で溢れている。小さなたんすや整理かごから物があふれ、鴨居にずらりとかけたハンガーには着古した服、調味料や使い古した食器の並ぶ台所。油がこびりつき茶色くなった換気扇。年季の入った平屋の一軒家は、どうみても昭和の遺物だ。茶の間のこたつで、背中を丸めて夕飯を食べているのは、老女、中年の男、若い娘。こたつのそばに立つ幼女。台所にいる中年の女が「それ食べさせたら返してきなよ」と男に言う。幼女は、マンションの廊下に出されて寒さに震えているところを見かねて、男が連れてきてしまったのだ。一度は返そうとするものの、幼女の両親の口論から、望まれて生まれた子ではないことがわかり、また、幼女の体に虐待の傷あとを見つけ、結局連れて帰り、いっしょに住むことにする。

是枝裕和監督の『万引き家族』は、社会の底辺でひっそり生きている彼らの暮らしを淡々と追っていく。そのつましい暮らしが少しずつ崩れていくさまを。

日雇い労働者として働く男と、クリーニング工場で働く女の収入、そして老女の年金だけでは食っていけない。男は少年とスーパーで万引きを繰り返す。女もクリーニング工場で客の服から出てきたものをくすねているし、若い娘は、JKの風俗店で働いている。みながなにかしらの犯罪に手を染めている彼らの日常は、意外にもおだやかで、どこかユーモラスだ。それでも、その目はどこか暗く、醒めている。まるでこの日常がいつまでも続かないことを知っているかのように。

是枝監督は、元々ドキュメンタリー畑の監督らしく、撮る映画はまるでドキュメンタリーのようなのだ。けれども、森達也が言っているように、ドキュメンタリーは事実の客観的な記録ではない。そこには必ず撮る側の主観や作意が入りこむ。森達也の作品が作意を自覚したドキュメンタリーだとすると、是枝監督の作品は、リアルを目指したフィクションという感じがして、いつも私はこの二人を対比して考えてしまう。手法こそ対照的だが、目指すところは同じような気がするからだ。二人ともそのように撮ることで、一面的で単純な見方を拒否し、複雑で豊かな世界を見せようとしているのではないかと思う。二人とも、世間が見ようとしなかった部分をあえて取りあげるところも似ている。それはオウムであったり、子供置き去り事件のような育児放棄であったり、乳児取り違い事件であったりする。世の人々があまり考えたくない事件に、あえて目を向けさせようとする作品に、彼らなりの矜持を感じる。

『万引き家族』の中で、この疑似家族が海水浴に行く場

面が、とても美しい。海の中でじゃれあう男と少年。波打ち際に遊ぶ若い娘と幼女。ビーチパラソルの下でそれを眺める老女と女。女が言う。「血がつながっていないほうがいいってこともあるじゃない?」老女が答える。「余計な期待しないからね」風に吹かれる老女の白髪まじりの後れ毛が、いつまでも目に焼きついて離れなかった。

* * *

第3回のシネマクラブは、カンヌ映画祭パルムドール賞を受賞した是枝裕和監督の『万引き家族』でした。見たい見たいと思っていたながら、映画館に行く機会を逃していたので、JAIPのシネマクラブの案内は、渡りに船でした。何年ぶりに訪れた飯田橋ギンレイ。名画座が姿を消していく中、ここは変わらずにいてくれて、ほっと一安心です。シネマクラブは『万引き家族』のみの鑑賞でしたが、ちなみにこの日の二本立てのもう一本は『カメラを止めるな!』でした。ちょっと前の話題作を二本立てで見られるのも、名画座のいいところですね。

鑑賞後、近くの居酒屋へ。「音楽がいいなあと思ったら、細野晴臣でしたね」ええっ!そうでした?というかどこに音楽? みんなで同じ映画を見て、その映画について話すのって、自分一人では気づかないことを教えてもらえたりして、やっぱり楽しい。映画好きのみなさんの「こんな映画を見た」という話を聞くのも好きです。えー!? そんなヘンな映画があったの? うわー見たい。いろいろ見たい映画が増えます。いやあ 映画って、本当にいいもんですね。それでは次回まで、サヨナラ、サヨナラ、サヨナラ。

(MHM 遠藤 尚子)



海外出張・海外見本市の視察を全力サポート！

海外出張・見本市の手配は、ジェイワールドトラベルにお任せください！
“専任のスタッフ”が決め細やかなサービスで快適な旅をお手伝いいたします。

FRANKFURT BOOK FAIR

2019年10月16日～10月21日

>>>> 予約受付中 <<<<

10月15日(火)出発 航空券(直行便利用) + ホテル手配 <モデルプラン>

①HOTEL A&O FRANKFURT GALLUSWARTE (★★)

<最寄り駅 (GALLUSWARTE) まで徒歩約3分。見本市会場までSバーンにて1駅。>
旅行代金：4泊6日 ￥229,000 (一人部屋追加代金 ￥56,000)

②RADISSON BLU HOTEL FRANKFURT (★★★★)

<見本市会場エリアに位置し、ホール8・9までは徒歩約10分。>
旅行代金：4泊6日 ￥245,000 (一人部屋追加代金 ￥72,000)

③HOLIDAY INN EXPRESS FRANKFURT MESSE (★★★)

<フランクフルト中央駅からバスで約7分、見本市会場まで車で約10分。>
旅行代金：4泊6日 ￥249,000 (一人部屋追加代金 ￥76,000)

④SAVOY HOTEL FRANKFURT (★★★★)

<フランクフルト中央駅向いに位置し、見本市会場まで徒歩約15分。>
旅行代金：4泊6日 ￥249,000 (一人部屋追加代金 ￥80,000)

⑤HOTEL EXCELSIOR (★★★)

<フランクフルト中央駅近くに位置し、見本市会場まで徒歩約15分。>
旅行代金：4泊6日 ￥259,000 (一人部屋追加代金 ￥90,000)

⑥INTER-CONTINENTAL HOTEL FRANKFURT (★★★★)

<フランクフルト中央駅から徒歩約5分。見本市会場まで徒歩約20分。>
旅行代金：4泊6日 ￥289,000 (一人部屋追加代金 ￥116,000)

※詳細はパンフレットをご確認ください。

上記以外にも、ジェイワールドトラベルでは、お客様のニーズに合わせた旅行手配を承ります。
お問い合わせからご帰国までをサポートし、ベストなプランをご提案いたします。

お問合せ・旅行手配



JATA正会員／観光庁長官登録旅行業 第1359号

株式会社ジェイワールドトラベル

お問合せ

Tel 03-3402-9955

〒107-0062 東京都港区南青山2-5-17 ポーラ青山ビル6F
URL www.jw-trvl.co.jp/ Email tet@jw-trvl.co.jp 担当: 藤代

日本洋書協会会報 vol.53 No.4(通算559号) 発行日2019年6月1日 編集者 遠藤 尚子

発行所 日本洋書協会 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-13 ㈱MHM内 TEL 03-3518-9631 FAX 03-3518-9523
URL: <http://www.jaip.jp> E-mail: office@jaip.jp